

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成26年12月18日 (2014.12.18)

【公表番号】特表2012-517288(P2012-517288A)

【公表日】平成24年8月2日 (2012.8.2)

【年通号数】公開・登録公報2012-030

【出願番号】特願2011-549196(P2011-549196)

【国際特許分類】

A 6 1 B 17/10 (2006.01)

A 6 1 B 17/32 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 17/10

A 6 1 B 17/32

【誤訳訂正書】

【提出日】平成26年10月29日 (2014.10.29)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 3 0

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 3 0】

動力付きエンドカッターのための能動的な調節可能なステープル高さ：組織の厚さ及び種類に合わせて調節可能なステープル高さが、長年にわたって追求されてきた。ごく最近では、第 1 1 / 2 3 1 , 4 5 6 号及び第 1 1 / 5 4 0 , 7 3 5 号が、装置内のより厚い組織によって誘発される負荷で器具の間隙を拡大させる柔軟結合部材又は支持体に関するものである。この「受動的な」可変のステープル高さにより、組織の厚さがより大きなステープルの形状を生じさせる。電源を器具の中に導入することで、これにより、電気を使用して、動的な結合要素の中の内部要素の高さを変化させることが可能となり、それにより、外科医又は器具が所望の高さを設定することで、ステープルの高さを「能動的に」変化させる。この内部要素は、形状記憶材料であってもよく、電気によってその温度が変化し、したがって、事前に設定された形状により、その物理的高さを変化させることが可能となる。別の実用的な方法は、電場の導入により高さと幅を変化させる電気活性ポリマー（EAP）を含めることである。更に、第 3 の実施形態は、従来の線形電気ステッパー要素を利用することであり、その線形電気ステッパー要素は、高さを調節する連結梁の中に、小さな調節可能なネジ要素をラチェット係合させ得るものである。